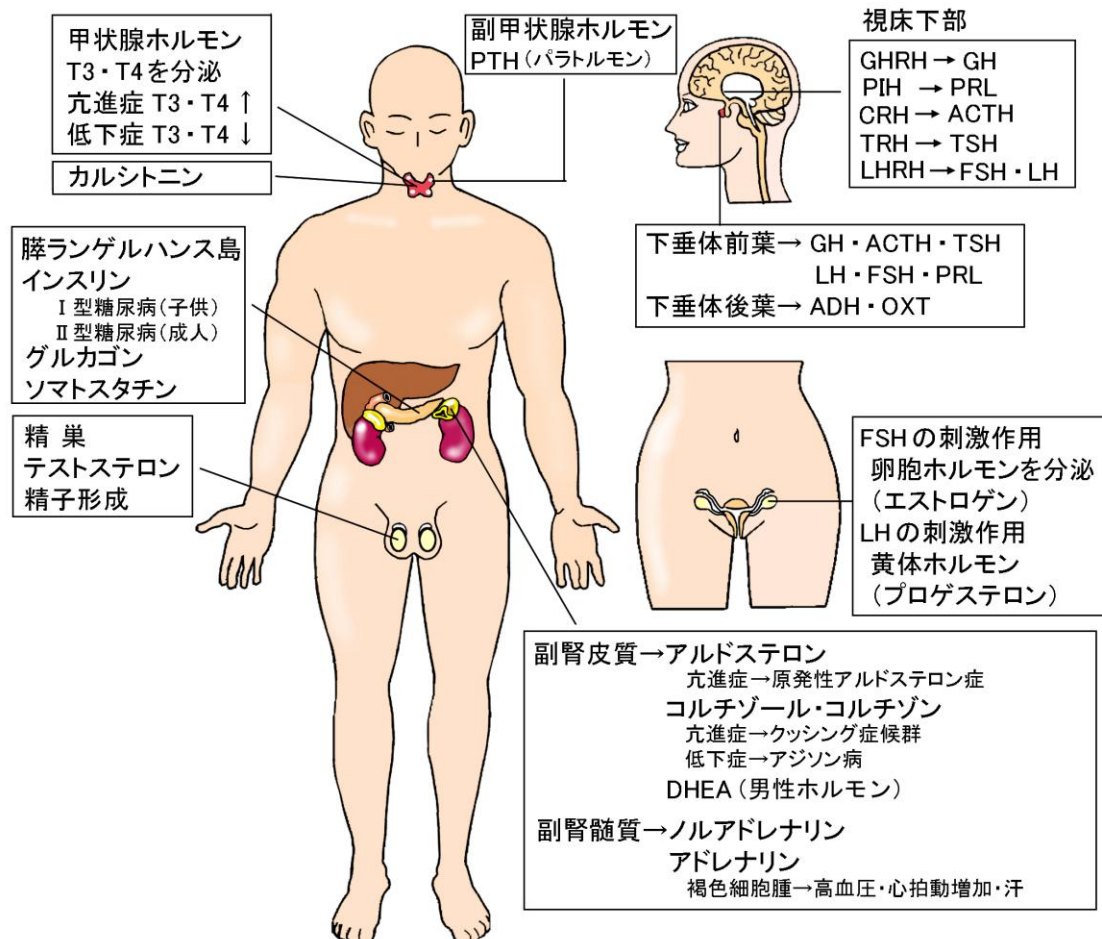


## 内分泌器官の分布



生体のホメオスタシス(恒常性)は神経性調節と内分泌調節によって調節される。神経性の調節では自律神経の交感神経(ノルアドレナリン)と副交感神経(アセチルコリン)による制御が行われる。内分泌調節ではホルモンと呼ばれる伝達物質によって制御される。ホルモンは微量で標的器官に作用し、細胞活性を亢進させる。またホルモンは血中濃度の上昇や低下によってフィードバックされ、ホメオスタシスが維持される。ホルモンの過剰や不足は重大な影響を及ぼす。分泌が過剰になると亢進症を、分泌低下で低下症を起こす。それぞれのホルモンは標的細胞に対して作用を及ぼすが、その働きは多様で他のホルモンと同じ作用が見られる場合と、拮抗作用を示す場合がある。ホルモンを分泌する内分泌器官は古典的には従来からある図に示した器官があるが、器官構造をとらない内分泌腺細胞があり、細胞間のホルモン性化学伝達物質が他種類特定(サイトカインやロイコトリエンなど)されている。